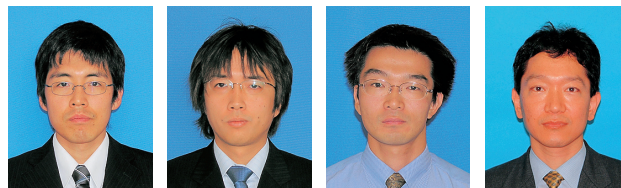


道路交通センサスの 高度化と効率化



道路研究部 道路研究室 研究官 松本 俊輔 部外研究員 古川 誠 主任研究官 大脇 鉄也 室長 上坂 克巳

(キーワード) 道路交通センサス、道路状況調査、交通量調査、旅行速度調査、自動車起終点調査

1. はじめに

道路交通センサスは、概ね5年に1度、全国の道路と道路交通の実態を把握するため、国土交通省と都道府県・政令市が実施する調査である。平成22年度はこの実施年にあたり、9月～11月に交通量調査、旅行速度調査、道路状況調査及び自動車起終点調査が実施され、現在、調査結果のとりまとめが行われている。

国総研では、これらの調査の高度化及び効率化を図るための技術的な検討を行い、その結果を調査実施要綱や調査支援ソフトウェアに反映させた。本稿ではこれらの概要を紹介する。

2. 調査目的の明確化

調査の主目的は将来交通需要推計に必要なデータの取得とされ、自動車起終点調査に重点を置き、主目的に沿って調査項目と方法の見直しが行われた。調査目的の明確化と後述するITの活用により、調査の高度化と効率化の両立が可能となった。

3. 調査の高度化と効率化の事例

調査の高度化と効率化の主な事例は次のとおり。

①調査区間の設定及びデータ分析の効率化のため、全国統一ルールに基づく調査の基本となる道路区間(新センサス区間)を新たに設定した。

②道路状況調査は、「アクセスコントロール種別」等の項目を追加するなど、将来交通需要推計等の道路政策に特に有効な調査項目に改めた。

③交通量調査は、自動車起終点調査の発生・集中量の照査に有効な地点を中心に行うこととした。また、車種区分は2車種に簡素化し、交通量常時観測装置や可搬式トラフィックカウンター等の機械式の交通量調査を基本とした(写真1)。

④旅行速度調査では、近年普及が進んでいる通信型のカーナビを搭載した車両の走行データを活用し、従前の混雑時だけでなく新たに非混雑時の旅行速度も調査した。(図1)。

⑤自動車起終点調査では、回答者の負担軽減のため簡易な調査票や郵送調査の導入を行った。



写真1 可搬式トラフィックカウンターによる交通量調査

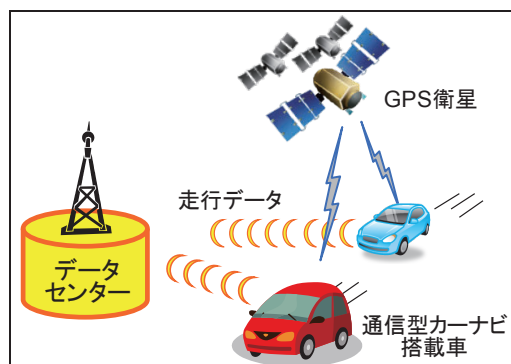


図1 通信型カーナビ搭載車の走行データを活用した旅行速度調査

4. おわりに

時々刻々変化する交通量や旅行速度の状況は、常時観測する体制へ移行される予定であり、国総研ではそのための技術支援を引き続き行っている。道路研究室HPに関連研究を掲載しています。
<http://www.nilim.go.jp/lab/gbg/index.htm>